

令和元年度 高鍋町立高鍋東小学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・わるい 】

教育目標	高い志をもち、自らを律して、力強く生きる児童を育成する。			
目指す学校像 目指す児童像 目指す教職員像	○ 知性を磨く学校（力いっぱい） ○ 自ら学び 深く考える子ども（かしこく） ○ 自ら学び、子どもと共に高まる教職員	○ 明るく楽しい学校（笑顔いっぱい） ○ 礼儀正しく 思いやりのある子ども（やさしく） ○ 創意工夫して指導を充実する教職員	○ 活気がある学校（元気いっぱい） ○ ねばり強く 元気な子ども（たくましく） ○ 積極的にコミュニケーションを図り、協働する教職員	
本年度の重点（教育的課題）	1 学力の向上＝教師の授業力アップ	2 心の教育の充実 明倫四徳「仁・義・礼・智」の意識化と実践	3 生命尊重と健康管理能力の向上	4 全職員で協働しながら取り組む特別支援教育

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価			学校運営協議会委員評価																				
			指標別	総合	結果の考察・分析	改善策等	コメント	評価																		
高鍋町重点指導事項 【知】授業改善 家庭学習習慣の定着 【徳】基本的生活習慣の定着 新明倫の教えの推奨 【体】生活のリズムの確立 【信頼される学校づくり】学校運営協議会の充実 幼保・小中高連携の推進	○ 授業力向上を目指した研究授業や研修を通して授業改善に努める。 ○ 家庭と連携し、各学年に応じた家庭学習を習慣化させる。 ○ 学校教育活動全般を通して率先した「あいさつ」「返事」「靴並べ」「整理整頓」を体得させる。 ○ 「新明倫の教え」を機会あるごとに唱和すると共に集会等において関連する講話等を行う。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯について、学校だよりや学級通信等で啓発する。 ○ 学校運営協議会のリーダーシップ、実務者会議の機動性の発揮、地域コーディネーターと連携した取組を行う。 ○ 学力向上や防災訓練、各種行事等における幼保・小・中・高等学校との更なる連携を図る。	○ 「わかる授業」をめざした教師の指導力の向上を図るため、研究授業を実施する。 ○ 発達段階に応じた家庭学習の習慣を確立する。（※ 1年30分～6年80分） ○ 日常生活の土台となる「あいさつ」「返事」「靴並べ」「整理整頓」の習慣化を図る。 ○ 学校・家庭・地域において「新明倫の教え」を推進し、80%以上の児童生徒が暗誦できる。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯の実践者（児童生徒・保護者）数を90%以上にする。 ○ 学校を地域や社会に開き、「地域の力」を学校経営に生かし、70%以上の児童生徒・保護者が十分実感できている。 ○ 幼保・小・中・高との連携の在り方を模索し、連携した行事等を5回以上とする。	A	A	○ 町学校支援訪問や初期研修に関わる授業研究を通して、研究授業を実践することができた。 △ 家庭学習の定着については、保護者の85%、児童の90%が肯定的な評価をしているが、不十分な児童も見られる。 △ あいさつについては個人差が大きく、下校時や地域においてのあいさつには課題が残るが、会釈や礼についてはしっかりできる児童が多い。 △ 新明倫の教えの唱和は、週1回程度各学級で取り組んでいるが、定着までには至っていない。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯については、保護者の評価は90%以上が肯定的な評価であるが、一部に夜更かしの児童が見られる。 ○ 授業や読み聞かせ等、年に百回以上、地域の方を講師に迎えた活動に取り組んでおり、保護者・児童ともに90%程度が肯定的な評価をしている。 ○ 幼・保・中連携は進んでおり、高校については、高校生が本校で児童と一緒に花壇の整備を行った。	家庭学習 ・各学年の実態に応じた学習課題 ・保護者への啓発生活習慣定着 ・あいさつ、礼法、整理整頓を重点的・継続的に指導 早寝・早起き・朝ご飯やメディア利用についての学校保健委員会や通信による家庭への啓発 幼保小中高連携 ・合同研修会や合同行事の実践継続 ・情報の共有化 ・地域での連携推進	・研究授業の実践は、今後も継続して欲しい。 ・家庭学習の習慣化は、今後も家庭と連携して実践して欲しい。 ・登校時のあいさつは、以前よりできている。 ・新明倫の教えの唱和の定着と家庭・地域での推進を期待したい。 ・実務者会議の機動性向上の為の議論を要する。 ・地域の人々が数多く講師として学校で子どもを見守っていることは、いじめ防止にもつながる。 ・夏季の補修等、高校生が先生役で関われる活動があるとよい。	A																		
			学力の向上 教師の授業力アップ						○ 児童の学力向上＝教師の授業力向上 ○ 家庭学習や読書活動の推進と充実 ○ 全職員による特別支援教育の充実	・「東小授業スタンダード」の実践 ・算数web学習評価システムの活用 ・個に応じた指導や習熟度別少人数指導で、全国学力、みやざき学力、CRT結果が県平均を上回る。 ・学びの構え（チャイム黙想、姿勢、返事、聴く、発表）を身に付けさせるとともに、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。 ・家読（親子で読書）を年3回実施 ・児童の困り感に寄り添った特別支援体制構築、校内研修の実施（外部機関との連携） ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善 ・保護者の支援と関係機関との連携推進	A B A B A B A	A	○ 高鍋東小授業スタンダードの実践については職員の94%が肯定的に評価しており定着している。 ○ web学習には学年の実態に応じて取り組んだ。 ○ 担任と加配教員が連携して指導にあたるなどしたことにより、CRT結果が4年の国語と5年の算数を除き、全国平均を上回った。 ○ 学びの構えのチャイム黙想は定着しているが、姿勢や聴く態度は個人や学級で差が見られる。 ○ 家読は年2回の実施であったが、保護者も協力的で、本の貸出冊数が年間で60,000冊を超えた。 ○ 特別支援体制が充実し、主任やコーディネーターが、学級担任を支援した。 ○ 職員で共通理解をし、全学級で取り組んだ。 ○ るびなす支援学校等と連携することができた。	個人差対応 ・学年で習熟度別指導や課題別指導 ・授業における習熟の時間の確保 立腰指導 ・校内放送や全校集会等による意識化 家読 ・今後も年2回の実施とし、重点的に指導 特別支援教育 ・個に応じた支援の在り方に関わる研修	・東小授業スタンダードの実践が素晴らしい。 ・習熟度の低い子への指導の徹底を願いたい。 ・基礎基本の内容を習熟させ、技能をしっかりと身に付けさせることが、重要であると考えている。 ・特別支援教育の充実が図られており、素晴らしい。特別支援教育の工夫改善は、全ての児童の学習にもよい効果を発揮すると考える。	A										
			心の教育の充実 明倫四徳の意識化と実践						○ いじめ不登校の未然防止と早期解決 ○ 自己決定の場を与える ○ 自己存在感を与える ○ 共感的な人間関係を育成する	・児童の自己実現への支援～生徒指導の3機能発揮と「あのねカード」や相談活動を毎月実施 ・学級活動、全校、学年集会活動、学校行事などで礼法指導や存在感・達成感を抱かせる場の設定と関り ・朝のさわやかなあいさつとボランティア活動など奉仕、体験活動の推進で思いやりの心と人のために働く態度を養う。 ・新明倫の教えを毎週一度は唱和させる。	A B B B						B	○ 生徒指導の3機能を意識した教育活動を目指している。また、悩みアンケートや教育相談が機能している。 △ 思いやりの心と人のために働く態度を養うことについては、個人差があり、更なる指導が必要である。 △ あいさつについても個人差があり、更に多くの児童があいさつを進んでできるようにする必要がある。	自己決定の場を確保 ・自分で考えるような習慣づくり ・特別活動の充実 ・奉仕活動の推進 ・PTA や地域ボランティアとの更なる連携	・学習効果の向上の為、生徒指導を見直す取組をしていることは、方向性として正しいと考える。 ・ボランティア活動は今後充実させて欲しい。 ・PTAの朝のあいさつ立ち番指導は、よい取組だと思う。	B					
			健康づくり 生命尊重と健康管理能力の向上						○ 基礎体力の向上 ○ 生命の尊重と健康教育の推進 ○ 心と体を豊かにする食育の推進	・新体力テストの結果の活用と実践、立腰指導、体育の時間、「体力アップ運動」の奨励 ・危険予知トレーニング（KYT）実践で事故の未然防止に努める。 ・むし歯治療率60%以上 ・東っ子お弁当の日の拡充、朝食の重要性指導	B B B A											B	△ 体力向上の指導については教職員の88%が肯定的評価をしているが、体力面の個人差や二極化が見られる。 △ 事故の未然防止の指導に努めたが、KYTについての研修が実施できなかった。 △ むし歯治療率は50%で、課題が見られる。 ○ お弁当の日は定着してきた。	体力づくりの推進 ・体育の時間での主運動の時間の確保 ・昼休みの外遊び推奨 ・KYTの研修等の実施 ・学校保健委員会に係るぐんぐん週間の実施	・運動は、健康と長生きの秘訣であり、更に体力向上の指導を願いたい。 ・運動会と地区のラジオ体操は相乗効果がある。 ・朝食の大切さをさらに共通理解して欲しい。	B

【次年度の方向性についての校長所見】  
 新明倫の教えや明倫四徳を基盤に据え、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを行いながら、礼儀正しく思いやりがあり、自ら学び深く考える児童を育成する。また、健康や体力について自分の課題を知り、その課題の解決を図る生活習慣の定着を図るなど、ねばり強く元気な児童を育成する。さらに、全職員がそれぞれの役割を果たし、組織的に教育活動にあたるようにするとともに、保護者及び地域の様々な人材や企業などの力を最大限に生かしたコミュニティスクールとして成長を続けていくよう努める。